

リハビリ俳句第十集（平成 22 年の四季より）

谷口 巖, 由美子 作

待春の杖の一步を踏み出せり
ふらここや二人の恋に揺れており
病葉の重なりあって堰を埋め
ふきのとう試歩の帰りの土産とす
年を経し夫婦のきずな菜飯たく

唯今相生R Cでリハビリ奮闘中の谷口さん、ご夫婦の俳句の一部です。四季折々の
お二人の風景をありのままに句にされています。声を出されて読まれてはいかがですか。

（はまゆう倶楽部図書）
（別冊は相生R C受付にあり）